

来週の市場とレート予想

	1/22(月)	1/23(火)	1/24(水)	1/25(木)	1/26(金)
無担保O/N			△0.086%	~0.001%	
銀行券	+ 1,200	+ 1,000	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 12,800	ト ン	△ 5,000	+ 3,000	ト ン
資金需給	△ 11,600	+ 1,000	△ 5,000	+ 3,000	△ 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M・1Y) 国債発行(30年)		交付税特会借入・償還		交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,200 CP等買入 △ 100 国債補完供給 + 300				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,400 CP等買入 + 2,500 ETF買入 + 700	国庫短期証券 + 12,500 国債買入 + 6,800			
(日本)	日銀金融政策決定会合 (23日まで) コンビニエンスストア売上高 (12月)	日銀金融政策決定会合の 結果公表と展望レポート発表 黒田日銀総裁会見 日銀営業毎旬報告 (1月20日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	貿易統計(12月、財務省)	全国スーパー売上高(12月)	日銀金融政策決定会合の 議事要旨(12月20、21日分) CPI(全国12月、東京都都区部1月)
(海外)	欧 AIIB総裁講演(ブリュッセル) 欧 ユーロ圏財務相会合 (ブリュッセル) IMF、世界経済見通し発表	米 マービン・ゲットフレッド氏の FRB理事指名承認公聴会 米 シカゴ連銀総裁、挨拶 欧 ユーロ圏消費者信頼感 指数(1月、速報値) 欧 EU財務相理事会(ブリュッセル)	米 FHFA住宅価格指数(11月) 米 中古住宅販売件数(12月) 欧 ユーロ圏製造業・サービス業・ 総合PMI(1月、速報値)	米 新規失業保険申請件数 (20日終了週) 米 新築住宅販売件数(12月) 米 景気先行指標 総合指数(12月) 欧 ECB政策委員会 欧 ドラギ総裁会見 独 Ifo景況感指数(1月)	米 GDP(10~12月、速報値) 米 耐久財受注(12月)

<インターバンク>

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.035 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.025 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

日銀当座預金残高は週初365兆1,000億円から始まった。国債買入オペ・国庫短期証券買入オペを主因に17日には368兆6,500億円まで増加した。その後、週末には国債発行等財政要因で減少し、367兆100億円となった。無担保コールON物加重平均金利は、12月積み期最終日となる15日は調達意欲が強く△0.029%となった。新積み期に入ると調達意欲は弱まり、週末まで△0.042~△0.041%の狭いレンジで推移した。ターム物は、1W~1M物で△0.045%~△0.035%の出が見られた。1月19日に実施された国庫短期証券買入オペのオファー額は12,500億円と、前回オファー分(1月12日、オファー額17,500億円、応札倍率2.00倍)より5,000億円の減額となった。応札倍率は1.76倍となり、前回対比で低下する結果となった。来週の予定は、国内では、日銀金融政策決定会合(22~23日)、展望レポート発表(23日)海外では、ユーロ圏財務相会合(22日)10

<CP>

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.120
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

今週の入札発行総額は約4,600億円で、20日スタート絡みの発行や4日間連続で商社がまとめた額の発行をしたこと等により、週間償還額の約3,200億円(金融機関・ABC除外)を上回った。発行レートについては、引き続き投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合いとなった。17日に、CP等買入オペが事前予定よりも500億円増額され2,500億円でオファーされた。ディーラーの積極的な売却ニーズもあって、按分落札レートは0%と前回比横ばいであった。来週の償還額は、約3,300億円となっている。五・十日発行が見込まれ、発行超となる見通し。発行レートは、投資家の運用ニーズが強くマイナスから0%近辺での出合いを予想する。CP等買入オペが、26日にオファー金額2,000億円程度で予定されている。現先レートは、▲0.100%~0%程度の出合いで、横這い圏内での推移を予想。

<TDB>

17日に行われた国庫短期証券1Y第733回債の入札は、最高落札レート△0.1371%(前回債△0.1497%)、平均落札レート△0.1401%(同△0.1547%)と前回からマイナス幅を縮小。一方、18日に行われた3M第734回債は海外勢の需要が強く、最高落札レート△0.1443%(前回債△0.1162%)、平均落札レート△0.1559%(同△0.1251%)と前回債からマイナス幅を拡大した。週末のセカンダリー市場は、3M物が△0.158%、1Yは△0.155~△0.150%程度の出が見られた。来週は25日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.10%近辺の出合いであったが、以降は先週末と同水準の△0.085%~△0.09%で推移。短期3M・1Yの発行が重なった22日受渡しでは、△0.07%台までレートが上昇。週末には国庫短期証券・国債買入オペがオファーされ、再度△0.085%~△0.09%まで低下した。SC取引では、10年349回債のbidが19日の国債買入オペ後増加。△0.10%台半ばで多く取引された。20年163回債は△0.30%台半ば~△0.40%台前半で推移していたが、週後半には△0.50%台半ばの出合いも見られた。他2年380・381・382回債、5年133・134回債、10年340・341・342・346・347・348回債、20年162回債、30年56・57回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。